

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第7回

宮城県仙台市若林消防団

今回は、宮城県仙台市の若林区をお訪ねしました。仙台には何度も訪れたことはありますが、若林区は久しぶりです。仙台空港に車で行く途中で迷子になったことを思い出します(笑)。

2年前の東日本大震災の際には、こちらでも大変な被害を受けたと聞いています。

そのときの被害状況、消防団の活躍、今後の防災対策などなどをお尋ねしたいと思います。

では、仙台市若林区消防団の佐藤守行団長、阿部祐一副団長、仙台市消防局若林消防署の菅野清和副署長の皆さんからお話を伺いましょう。



左から、佐藤団長、ダニエル・カール、阿部副団長、菅野副署長
(仙台市若林消防署の署長室にて撮影)

仙台市若林区と消防団について

ダニエル 本日はよろしくお願ひします。では、若林区について教えてください。

菅野副署長 若林区は、宮城県仙台市の東南部にあり、人口は約13万人、面積は50平方キロメートルとなっています。区域は都心の一部と市街地の「都心及び周辺地域」、その東側から仙台バイパスを挟んだ「郊外住宅地域」、北部の商業・工業地帯の「卸町・六丁の目地域」、太平洋に面した「田園・海浜地域」で形成されています。現在、仙台中心部と結ぶ地下鉄東西線が建設中で、平成27年度の開業を目標にしています。これから更に発展していく地域ですが、2年前の東日本大震災で大きな打撃を受けました。

ダニエル テレビ映像を見ました。当時の状況などは後ほど伺いますので、まず、消防団について教えてください。

佐藤団長 仙台市内には7つの消防団があり、若林消防団はその1つです。本部分団と5つの分団で構成され、さらに24部があります。現在の団員数は341名で、定員は400名ですので、充足率は約85パーセントとなっています。

ダニエル 主にどのようなかたが団員になっていますか。

佐藤団長 約7割がサラリーマンです。

ダニエル 平均年齢は…?

佐藤団長 平均年齢は41歳前後です。

ダニエル どんな活動をしているのですか。

佐藤団長 5つの分団の自主性に任せています。それぞれの分団が年間行事計画をつくり、その計画に沿って活動しています。火災予防週間やお祭りなどのイベントの際に、防災について指導的立場で活動しています。防災アドバイザー

の資格を持っている者もいます。昭和53年の宮城沖地震を経験してから、6月12日を防災訓練の日として仙台市では定めており、それぞれの地域では、住民と一緒に防災訓練を行っています。また、若林区の南部には、広瀬川・名取川・貞山（ていざん）運河の水利があるので、大雨やゲリラ豪雨のときなどに水防活動を行っています。

ダニエル 今年はたくさんあって、全国の消防団員さんは大変ですね。土のう積みの訓練などもやっているのですか。

佐藤団長 そういう訓練もやっています。地域的に、若林区は太平洋側で標高が低く、どうしてもこちらに水が来ます。若林区内には六郷・七郷という分団がありますが、六郷が定員150名、七郷が定員140名と非常に大きく、仙台市で最大です。おそらく水防対応のために人員が多く必要だったという歴史があってそうなったのではないかと思います。

ダニエル 海岸線は江戸時代からのままでしょうか。埋め立てたのでしょうかね。

佐藤団長 元々はもっと手前に海岸線があったと聞いています。貞観（じょうがん）時代の津波（貞観11（869）年5月）は、もっと内陸部まで来たといわれています。今回、東部



道路（仙台市宮城野区と亶理町を結ぶ高速道路）がなかったら、消防署まで来たかもしれません。

ダニエル いわゆる津波ウォールの役目を果たしたのですね。

被災時の状況等について

ダニエル 2年前の東日本大震災で大津波警報が出たときはどんな様子だったのでしょうか。

阿部副団長 私は自宅から車で5分くらい離れたところで、春の園芸祭りの準備中でした。そこで地震に遭いました。津波が大津波警報に切り替わったので、皆に逃げろと声をかけました。私は自宅まで戻ったところ、近所は混乱していました。どこに逃げればいいのかと。とにかく私たちも逃げるから、東部道路より向こう（西側）に逃げるように言いましたね。

ダニエル 地震発生後まもなくに警報が出ましたよね。

佐藤団長 14時46分に地震が発生し、3分後には大津波警報が出ました。最初の津波の予測が6m、それから10m以上になりました（15時14分）。1mの高さで1kmは進むということを昔から聞いていたので、10mと聞いたときは、正直、危ない、どうしようもないなと思いました。

ダニエル 逃げるしかないですね。

佐藤団長 地震が震度5弱以上になると、団員は自主的に活動する決め事があります。団員はそれぞれの部、詰め所に集合し、積載車で広報活動や、避難誘導などを行うのですが、団員からは、内陸への道路は相当渋滞していたと聞きました。どうしようもなく、動けなかった車も多かったそうです。

ダニエル 他の被災地域でも同じような状

況を聞きました。やはり、より速く逃げられるよう、広い道路が必要ですね。

佐藤団長 市でも計画はしているようです。人の土地をいろいろとお世話になりながら、道路を広げないといけないので、大変だと思いますが。海岸からここ（消防署）まで3キロから3.5キロくらいありますが、小学校のほかは目立った高い建物がないんですよね。

ダニエル ピラミッドみたいな頑丈な小山をあちこちにつくろうという話もあるそうですね。避難所になるように。お金がかかりそうですが。

佐藤団長 とにかく津波のような、どんな大きなものか来かわからないものについては、



被災時の若葉区内荒浜航空分署庁舎東側の様子



被災時の若林消防署4階講堂の様子

まずもって逃げろというしかないです。より遠く、高い場所に。そのほかの対策が思いつきません。

ダニエル この未曾有の災害の中で、団員の皆さんの何かやらなければという気持ちはもう精いっぱいだったと思います。あれだけの津波ではどうしようもないですから。

佐藤団長 地震が発生してから津波が到達するまで少し時間があつたので、団員は自主的に避難誘導や広報などをやっていましたが、津波到達を確認することについては、自分自身の気持ちが高揚していて、助けるという意識が頭の中を大きく占めていて、逃げるという意識がなかったと思います。残念ながら、我が消防団でも1人の殉職者を出してしまいました。痛恨の極みです。悔やんでも悔やみきれません。

とにかく、津波については、出動もさることながら、帰ってきたことを確認するのもたいせつな行動の1つと、今回、強く思いました。帰ってきたことを確認するというのは、なかなか厳しいんです、消防団は。



(注) 広範囲にわたる仙台平野への津波到着時刻は15時50分前後であったことが推測できる。(略) 国土地理院の浸水範囲概況図によれば、仙台平野では海岸から平均

して内陸4kmまで津波による浸水域が広がり、仙台市若林区では内陸6kmまで浸水域がある。「東日本大震災における消防活動記録誌」(仙台市消防局発行)より抜粋

これからのこと

ダニエル これから消防団としてやりたいこと、抱負、防災対策などについてお願いします。

佐藤団長 津波に特化した話になりますけど、幅広い教育が根本として必要ではないかと思えます。学校にしろ、我々にしろ、いろんなことで教育がいちばんの対策、災害に立ち向かう糧(かて)になると思えます。

より具体的なことを言うと、団員の安全を第一に考えた資機材をもっと整備して行ってほしいですね。

また、地震が発生して消防団員が広報などのために現場に行って活動したとき、今回のように道が渋滞することが考えられるのですが、現場から消防署まで無事に戻ってくるための具体的な方策がありません。現場周辺で活動して戻るには、だいたい10分前後くらいしかないと思えます。その辺りを勘案した出動の際の基準作りが必要だと思えます。将来的には、バイクを使った広報活動もいいと思えます。狭い道での移動も便利だし、幅広く活動できるので。

現在、水防対策のため、小型船舶の免許を団員にとらせて、いざというときに活躍できるよう、消防局で計画を立てており、順次広まっています(現在までに17名が免許を取得)。団員勧誘のときの目玉の1つになってくれるといいなと思っています。

菅野副署長 若林区の沿岸部ではたくさんの消防団詰め所が流されたのですが、市では、被

ローテーションを組んで行いました。自分たちも被災者なのにもかかわらずです。若林消防団のきずなは、ほんとうに高まったと思います。

ダニエル 今回の震災の後、団結力が強くなったということを他の被災地でも聞きました。東北人は皆さん強い!

そのきずなの強さなら、今後の活動もだいじょうぶですね。がんばってください。

対談を終えて

2年前の東日本大震災は、千年に一度の、未曾有の恐ろしい経験だったと思います。

何度も被災地にボランティアに行きましたが、その度に東北の皆さんの強さに感心させられました。

仙台市若林区は、他の地域と違って、海にも川にも面しており、平野部分が多くて水害に遭いやすく、消防団員の皆さんはほんとうに大変だと思います。でも、今回の大震災を経て、きずなの高まった皆さんならどんな災害でも乗り越えられると思います。

仙台市若林消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。(ダニエル・カール)

